

詠む広場

毎日俳壇

片山由美子選

まだ点かぬ庭の外灯日脚伸ぶ

北九州市 篠原 敬祐

△評▽少しづつ日暮れが遅くなってきたことを感じる季節。そろそろ外灯がともってもよい頃だがと庭に目をやっていると。

月光のしたたり止まぬ軒水柱

北広島市 水口 茂

△評▽軒先のつららに月光が降りそそいでいる美しい光景。中七の誇張表現が説得力をもつ。

門灯の点いてる留守冬の梅

日野市 田村登代子

朝市の富士より白き大根かな

町田市 枝澤 聖文

畜焼のぬつぽりはらわた抜き出せり

伊丹市 奥本 七朗

牡丹雪鍵盤に指置くやうに

山形 佐藤美和緒

バスを待つ人一列に日向ぼこ

千葉市 吉川美恵子

焦げ臭きものに近づくと冬の浜

加古川市 中村 立身

なつかしきものばかり売る初大師

大阪市 隠樹ノリエ

遺言は宜しくこの寒扉

長久手市 加納 碩恵

小川 軽舟選

誰か捨てし花束流る冬の川

福岡 手島喜美江

△評▽誰がもらった花束か。なぜ川に捨てられたのか。何も言わず寒々と流れる花束に凝縮されたドラマが感じられた。

目を凝らすホワイトアウト初景色

秋田市 鈴木華奈子

△評▽正月早々、雪で視界が真っ白に閉ざされた。雪国ならではの初景色と言っほかない。

流水をひきずり集め深焚火

千葉市 高橋 信子

有平棒小さく小春の理髪室

札幌市 村上 紀夫

春風や磯の香強き直売所

東広島市 福岡 宏

突堤に鈴なりのひと初明り

大津市 横川 和釀

アイゼンを効かせ雪嶺登頂す

東京都 賢三郎

デッサンの影黒々と寒の月

東京都 福島 隆史

春着の子春着のままに眠りをり

帯広市 柏木 七坂

元朝の光のなかの寝息かな

仙台市 伊藤 和彦

西村 和子選

風見鶏くるくる回り春隣

相模原市 はやし 央

△評▽音読してみると、二行の音の連なりが軽やかで心地よい。寒い日でも、春がすぐそこに来ていることを教えてくれる。

集合は蕎麦屋の二階初句会

我孫子市 桑原真喜子

△評▽気が置けない小人数の句会であることがわかる。今年も同じ場所毎月句会が始まる。

まつ雪の深さをたづね初電話

高崎市 小林孝子

着ぶくれて待合室の椅子せまく

松山市 井上 保子

寒風に突るカラスの声ふたつ

岸和田市 板原 克介

バス停に遠き下宿の冬灯

松本市 伊藤 和夫

蛇口よりたはしる水や寒の朝

東京都 森 一寒

毛海音掻く蝨の背へ荒磯波

高山市 直井 照男

抱かれてボンボンゆる毛糸帽

津市 渡邊 健治

葉牡丹の渦に夕べの雨の粒

浜松市 野畑 明子

井上 康明選

冬の川繩綱ふやうに落合へる

仙台市 引地 恵一

△評▽濁水し細くなった冬の川が台流し流れ下る。繩綱ふやうに」という例えは、人の世に繰り返される禍福を思わせる。

流籠馬の馬蹴り上げる春の土

西海市 まえたいっそう

△評▽春の流籠馬神事の一場面。馬が蹴り上げるのは、やわらかい春の土。一気に馬が駆け抜ける。白粥に位置を占めたる寒卵

太陽に追はるる如く霜解くる

小平市 中澤 清

春の初風バスに乗る園児たち

宗像市 波田てつお

古書店主鰯魚を祭りけり

奈良市 浦城 亮祐

雪女郎つりざね顔でありにけり

相模原市 はやし 央

鶴鶴のいきいきと跳ぶ水かな

甲府市 清水 輝子

関八州峰を揺るがす雪解川

市川市 高野 厚夫

奥伊賀に君臨したる滝水

伊賀市 福沢 義男

<歌集>

新刊

<句集>

◇河原地英武『虫売(むしうり)』第3句集。書名からもうかがえる通り、いきものに對するまなざしの深さが印象的な一冊である。

△しらしと翅(はね)ふるはせて蟬(せみ)とまる△西陣の空にてのひらほどの風(たこ)△燦(きらめ)舎(や)・11000円

◇森岡正作『貼(あゆ)の川』第4句集。郷愁を越えた郷里へのまなざしと抑えた情感が句集を支えている。△虹消えぬうち(に)に優(やさ)しさを言(い)ふ△山家(やまが)にも華(はな)やぎのあり富(とみ)有(あ)り△(ふゆ)柿(かき)△角川文化振興財団・29700円

◇蘭草慶子『雪日(せつじつ)』第5句集。写生の確かさが心に残る一冊。一句一句の格調の高さとともに、ある種の華やきが全体を貫いており、読後の充実感を約束してくれる句集である。△永(とこ)き日(ひ)のあはうみに梅(うめ)△(う)を(い)れにけり△また粒(つぶ)のふれあはすして青葡萄(あおぶどう)△(ふらん)す堂(どう)・30800円

(俳人・樺末知子)

◇竹柏会『心(こ)の花』編集部編『佐佐木幸綱の一首』佐佐木の第1歌集『群(ぐん)衆(しゆ)』から第17歌集『才(さい)が来た日(ひ)まで』を対象に「心(こ)の花」に長く連載された文章を収録。歌を読み返すことにより佐佐木の歌の世界の大きさを改めて知る。△無頼(むらい)たれ(たれ)されど(と)ライオン(ライオン)脱(だつ)ぐ(ぐ)とき(とき)のむさむさ(むさむさ)と(と)満身(まんしん)創(そう)傷(けい)△(そう)い(い)の(の)ひと(ひと)り(り)△(な)が(な)ら(ら)み(み)書(か)房(ぼう)・33300円

◇伊藤一彦『古(こ)樹(じゆ)ふる(ふる)を(を)想(おも)い(おも)い(おも)い(おも)い』敬愛する歌人岡野弘彦、斎藤茂吉、若山牧水、河野裕子に関する講演▽在住の地宮崎の神話にまつわる講演▽上野誠との対談▽短歌オペラの脚本一冊を収めた一冊。『テーマ』は「心のふるさと」である。(青磁社・30800円)

◇小島なお『卵(たまご)降(ふ)る(る)』第4歌集。後戻りできない鍾(かね)おも(おも)り(り)が加わってきたと著者は述べる。「不妊治療」を大切なテーマとして切々と詠む。△木(き)の実(み)降(ふ)る(る)径(みち)△(みち)は(は)私(わたし)に(に)続(つ)き(き)お(お)り(り)卵(たまご)降(ふ)る(る)日(ひ)々(々)を(を)き(き)み(み)と(と)歩(あ)り(り)△(左(さ)右(え))社(しゃ)・22000円

(歌人・中川佐和子)